

リンゴ出荷に使用 段ボール製造 AIで高度な受注予測



システムを確認する長谷川社長（左）と
田中グループ長

5日に五所川原市でこれ
までの取り組み状況を発表
した。同事業は昨年度の県
DX先行モデル創出支援
事業に採択されており、県
議会総務政策部会委員
会の委員も現場を視察し
た。

だが、繁忙期は「きょうの
午後」「あした中に」とい
う急な注文も多く、ピーク
を想定して過剰な在庫を抱
えたり、トラックの配車台
数が多かったりすることも
あった。

同事業でAIを活用して
顧客の受注実績、公開され
ている市場や気象などのオ
ープンデータを分析し、顧
客別に受注販売量が予測で
きるシステムを構築。今年
度本格稼働するが、テスト
運用では受注予測精度が30
・7%改善、人件費や配送
費など年間830万円の削
減効果が見込まれた。

長谷川社長は「現場の仕
事を効率化し、顧客への
サービス向上に貢献する
ことを目指している」と
述べた。

配車手配など効率化

NTT青森支店と森羽紙業（五所）

（今井珠世）

NTT東日本青森支店（磯崎栄支
店長）と五所川原市の森羽紙業（長
谷川通代表取締役社長）はリンゴの
出荷に使う段ボールの製造に当た
り、人工知能（AI）を活用した高
度な受注予測ができるシステムを構
築した。

より適正な受注予測ができ
るため、在庫管理や段ボールを運ぶ
トラックの配車手配などに無駄がな
くなり、経費削減にもつながるとい
う。

事の効率が良くなってい
る。データさえあれば、ま
だまた予測の精度は上がる
と思う。トラックの手配も
予測できるので、2024
年問題への対応にもなるの
ではないか」と話した。N
TT東日本青森支店ビジネ
スイノベーション部の田中
直樹グループ長は「県内企
業のDX（デジタルトラン
スフォーメーション）をけ
ん引する先行モデルとなる
事業。（AIによる予測シ
ステムは）小売りや流通な
ど他産業でも活用できる」
とし、他産業への波及効果
を期待した。

『陸奥新報社』2024年6月6日付4面